

WEEKLY SIGNAL

2020年9月11日(金) 1541号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/14(月)	9/15(火)	9/16(水)	9/17(木)	9/18(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 200	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 26,600	△ 2,000	△ 4,000	+ 1,000	+ 1,000
資金需給	△ 26,400	△ 2,000	△ 4,000	+ 1,000	ト ン
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M) 源泉税揚げ				
オペ期日	CP等買入 △ 900 社債等買入 △ 100 国債補完供給 + 100 ドル担保補完供給 + 9,000		貸出増加支援 △ 49,500		被災地支援 △ 800 ドル担保補完供給 + 15,100
オペスタート	国債買入 + 12,000 ETF買入 + 700				
(日本)	日銀営業毎旬報告 (9月10日現在) 鉱工業生産(7月)		日銀金融政策決定会合(17日まで) 貿易収支(8月) 輸出(前年比)(8月) 輸入(前年比)(8月)	日銀金融政策決定会合、 終了後に結果を発表・総裁会見	全国CPI(8月)
	ユーロ圏 鉱工業生産(7月)	米 FOMC(16日まで) 米 輸入物価指数(8月) 米 鉱工業生産(8月)	米 FOMC声明発表、 パウエルFRB議長記者会見と経済予測 OECD経済見通しの中間報告 対米証券投資(7月) 米 小売売上高(8月) 米 企業在庫(7月) 米 NAHB住宅市場指数(9月)	米 新規失業保険申請件数 (9月12日終了週) 米 住宅着工件数(8月) ユーロ圏 CPI(8月)	米 セントルイス連銀総裁、 バーチャル形式の討論会参加 米 経常収支(2Q) 米 景気先行指標総合指数(8月) 米 シガン大学 消費者マインド'指数(9月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 2M	0.000 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.070
SPOT 6M	0.000 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初459兆4,400億円から始まった。週を通して概ね横ばい圏で推移し、457兆8,000億円で越えた。無担保コールON物は週を通して軟調な地合で推移した。同加重平均金利は週初△0.064%で始まり、週末は△0.074%(2019年11月14日以来、約10か月ぶりの低水準)まで低下した。また、7日のON物の市場残高は1月16日以来、約8か月ぶりに4兆円台に減少した。ターム物は、1~2Wの期間で△0.070~△0.050%の出合が見られた。9日、日銀は当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しについて、9月積み期間は24.0%(前回29.0%)とした。来週の主な予定は日銀金融政策決定会合(16-17日)、海外ではFOMC(15-16日)がある。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.02 ~ 0.000
TDB 3M	△0.140 ~ △0.095
現先(on/1w)	△0.05 ~ 0.00

<CP P>

今週の入札発行総額は約5,400億円で、週間償還額(約6,200億円)を下回った。発行市場は、15日スタートで小売業や電気機器業等の大型案件が実施されたものの、週を通して案件少なめで落ち着いた市場であった。先週末の市場残高は25兆7,555億円であったが、10日時点では25兆7,654億円と、小幅に増加している。発行レートは浅いマイナスから0%近辺での出合いが中心であったが、引き続き一部銘柄で下限レートを切り下げる動きも見られた。来週の週間償還額は、約7,600億円となっている。5・10日発行が予定されるため、取引は活況が見込まれる。発行レートは、浅いマイナスから0%前後の出合いを予想するが、発行量の少ない銘柄ではやや強いマイナスレートでの発行が見込まれる。15日に、CP等買入れオペが6,000億円オファーされる予定。

<TDB>

9日の6M935回債(3/10償還)の入札は、最高落札利回り△0.1330%(前回債△0.1011%)、平均落札利回り△0.1450%(同△0.1110%)となり、入札後△0.144%の出合が見られた。11日の3M936回債(12/14償還)の入札は、最高落札利回り△0.1102%(前回債△0.1162%)、平均落札利回り△0.1178%(同△0.1239%)となり、入札後△0.12%近傍の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは3M934回債(12/7償還)が△0.135%~△0.140%のレンジ、6M932回債(2/25償還)が△0.140%~△0.145%のレンジで取引された。

<レポ>

足許GC取引は、週初△0.18%~△0.15%の出合いから始まり、短国買入オペがオファーされた9日受渡しも同水準で取引された。週央以降は短国の発行もありレートは上昇し、△0.11%~△0.10%で推移した。SC取引は2年410~416回債、5年137~144回債、10年340~359回債、20年170~173回債、30年63~67回債、40年13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。